

前立腺肥大症で お悩みの方へ

医療保険
適用

私たちはPVPをおすすめします

当院では、2005年(平成17年)より日本で初めてPVPを開始し、これまで約1,700名の方々にPVPを行いました(※)。術中・術後の重篤な合併症(輸血を含む)は無く、その効果は従来の電気メスでの前立腺切除手術「TUR-P」と同等でした。

PVPは心疾患や高齢などの理由で従来の手術が困難な方でも安心して受けていただける手術です。

前立腺肥大症の症状でお困りの方で、PVPに興味がありましたら当院泌尿器科までお気軽にお尋ねください。

※2018年12月現在



名古屋セントラル病院

NAGOYA CENTRAL HOSPITAL

〒453-0801 名古屋市中村区太閤3-7-7

[泌尿器科 外来] Tel.052-452-3165 (代表)

診療時間/月~金 9:00~12:00

名古屋セントラル病院 PVP

検索

名古屋セントラル病院は

- 日本で初めて前立腺肥大症に対するレーザー手術「PVP」を実施
- PVP手術実績は日本トップクラス
- 最新レーザー機器 GreenLight XPS 導入 の病院です



前立腺肥大症は、保険適用のPVPで安心して治療できます。

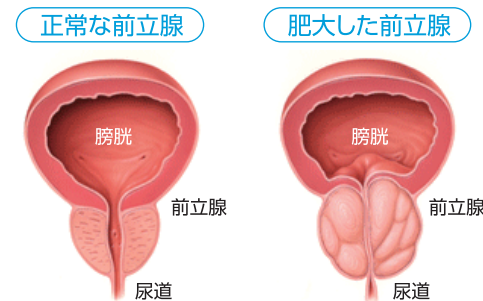
前立腺とは？

前立腺という臓器は射精液の一部を産生する男性のみにある臓器です。その大きさは通常クルミほどの大きさで、膀胱から尿を排出する尿道の周囲に存在しています。

この前立腺が加齢に伴い大きくなった状態を前立腺肥大症と呼び、尿道を圧迫したり、膀胱に刺激を加えることで尿が出にくくなり、夜中に何度もトイレに起きるといった症状が出現します。

前立腺肥大症の治療

前立腺肥大症の治療には大きく分けて内服療法と手術療法があります。診断当初は内服を開始して通院することが多いですが、内服薬は症状を和らげることが主な役目であり、肥大した前立腺をもとの状態に戻し根本的に治癒させるというものではありません。良好な排尿状態に戻すためには内視鏡手術が必要となります。現在この内視鏡手術には電気メスを用いる方法(TUR-P)と、レーザーを用いる方法があります。



PVPとは

海外では、LBOLレーザー(Boston Scientific社製)を用いた前立腺レーザー蒸散術「PVP」が盛んに行われており、特に米国では従来型の手術「TUR-P」を抜いて第一選択の手術となりつつあります。PVPはこれまでの内視鏡手術と異なり、ほとんど出血せずに前立腺を蒸散することが可能で、しかも手術後の患部の腫れがほとんどないため、手術翌日からの排尿が可能で、痛みもほとんどありません。



肥大した前立腺



レーザーによる蒸散



PVP後の尿道



(LBOLレーザー発生装置)
©2019 Boston Scientific Corporation. All rights reserved.

PVPは、患者さんの身体への負担が非常に軽い理想的な手術です。当院では、日本で初めてPVPを導入し、約1,700名の方にPVPを行っています。また、保険が適用されるため、従来型の手術と同じ費用負担で受けられます。

特徴

1

手術後の痛みがほとんどありません

手術中はもちろんのこと、手術後も排尿時の痛みがほとんどありません。手術直後から良好な排尿となります。

特徴

2

手術後の尿道のカテーテルは翌日まで

手術後の出血や腫れが少ないため、手術翌日には尿道カテーテルを抜くことができます。

特徴

3

短期間の入院ですみます

今までの手術法では手術後の出血や、尿道カテーテルを数日間留置する必要性から、入院期間が手術後最低1週間は必要でした。PVPでは手術翌日に尿道カテーテルを抜くので、入院期間は3~4日間の場合がほとんどです。

特徴

4

身体への負担の少ない手術です

従来手術と比較して手術中の出血が少なく、身体への負担が非常に少ない手術です。また手術後に生じる尿失禁や尿道の狭窄の心配はほとんどなく、逆行性射精(射精液が膀胱側に排出される合併症)の生じる割合も少ないのが特徴です。

特徴

5

術中の様子を専用モニターでご覧頂けます

術中は専用モニターで手術の様子(前立腺が蒸散され、尿道が拡大してゆく様子)を、医師の解説のもと、ご自身でご覧頂くことも可能です。 ※下半身麻酔の場合



(モニターを見ながらの手術→)